住設・供給機器 新技術

パロマ
機能・安全性さらに向上
「フェイシスシリーズ」モデルチェンジ

パロマ（本社・名古屋市、小林弘明会長兼社長）は、ビルトインこんろ「FACEIS」（フェイシス）シリーズをモデルチェンジ、FACEIS GRAND（フェイシスグランド）シリーズとして22日に発売する。新シリーズは新たにグリル使用時の煙と臭いをカットする「スモークカットグリル」を搭載し、天板の清掃性を向上させるため「ひろびろ×すっきりトップ」を採用。共働き世帯の増加や高齢化社会による家事負担の軽減や安全・安心に対するニーズの増加に対し、「感動すっきり」「驚きクッキングテク」「さらに安心」の三つをコンセプトとした。

スモークカットグリルは、グリル使用時の煙と臭いを「アフターバーナー」で、臭いを「触媒フィルター」で二重に抑える。同梱のラ・クックグランを使用すると、さらなる減煙効果があり、煙を99%カットする。グリル排気口はアイランド構造とし、広くすっきりとさせることで清掃性や調理中の鍋の仮置きなど利便性も向上。アプリオートメニューに対応し、専用アプリ「おまかせシェフ」から検索したレシピをこんろに送信すれば、手順に従うだけで簡単に調理が可能。別売のラ・クックグランポッドにも対応している。

さらに点火するとアフターバーナーが発光し、グリル庫内が明るく照らされる。使用状況が分かりやすく、消し忘れにも気づきやすい設計。レンジフードはこんろやグリルの点火口数などに応じて風量を自動調整することで、通常使用に比べ消費電力を約29%削減する。

フェイシス

天板幅は75と60㌢。クリアガラスとハイパーガラスコートの2種類でシャインシルバー、シルキーピンク、ティアラシルバー、クリアパールブラックの4色を展開。税込み希望小売価格は27万4340～28万6660円。

デザイン一新し高級感

「ウィズナシリーズ」便利機能も追加

パロマはビルトインこんろ「WITHNA」（ウィズナ）シリーズをモデルチェンジし、22日に発売する＝**写真**。「一緒に暮らしたくなるようなコンロ」が語源のウィズナは、丸い点火ボタンを搭載したスタイリッシュな人気シリーズ。今回、デザインを変えるとともに、感震停止機能やこんろタイマーなどの機能を追加した。

こだわりのキッチンにも調和するブラックカラーの「Black Line（ブラックライン）」タイプも同時に一新する。

点火ボタン形状は押しやすさを向上させるために変更。全周メッキ加工＋スピンドル加工により、見た目も美しくした。アクリルパネルは新たにヘアライン風デザインとし、高級感を演出している。

ハイパーガラスコートトップの外周のパッキンもすっきりアルミ枠に変更。キッチンとこんろの天板の間の隙間をより小さくした。

後こんろタイマーも追加し、1～99分（1分単位）で設定ができ、時間になると電子音で知らせ、自動消火する。こんろやグリルの点火口数などに応じて風量を自動調整することができるため、通常使用に比べ消費電力を約29%削減させる。万が一の地震の際は自動消火する。

天板幅は75と60㌢。クリアガラスとハイパーガラスコートの2種類で

ガス検
ミストで現場環境改善
「涼霧システム」酷暑緩和を提案

富岳物産の充填所に導入された「涼霧システム」

高圧ガス製造施設保安検査事業者のガス検（本社・朝霞市、村本晃一社長）は、〝プラントドクター〟として検査方法の効率化や時代に即した検査の開発を進めてきたが、新たに製造施設の環境改善にも取り組む。特にここ数年、夏場の酷暑緩和が製造施設でも課題になっていることから、産業用空調加湿システムなどフォグエンジニアで〝霧のいけうち〟と評判のいけうち（本社・大阪市、中井志郎取締役執行役員社長）製「涼霧システム」について、プラントエンジニアとして提案・導入を積極的に展開、導入実績を積み始めている。

ガス検では、プラント開放検査工期を大幅短縮する「短縮くん」や、寒冷地域での容器凍結による充填不良を防ぐ「解氷くん」、地震など災害に備えてLPガス貯槽基礎を除振架台などで強度確認・基礎補強を行う「診断くん」など、独自の工法や技術を駆使して商品化を進めてきたが、最近では検査対象施設の作業環境の改善に資する提案も手掛けている。

「涼霧システム」は、200㌔仕様の涼霧ポンプユニットと耐圧チューブを介し高圧ホース（ミストノズル付き）を接続する。充填場の広さに合わせて4方向、3方向などミストラインは自由自在で、ポンプ入り口の水供給は通常の水道水をつなぎ込み、ポンプで6㍍に昇圧し吐出する。散水用の貯槽水を利用しないので、万が一の際も安心。

ここ数年の酷暑で、散水ポンプを利用するケースもあるが、その場合は万一の際に散水用水が枯渇するだけでなく、雨水を貯めているため、衛生的にもミストには適さないが、同ユニットは水道水を直接利用するため衛生面でも安心だ。ミスト噴霧で雰囲気温度は確実に下がり、労務環境も大幅に改善する。元来、充填所における充填場は、温度上昇を避けるため通風性が良く、天井が日陰で涼しい場所でもあるが、ここ数年の酷暑は充填場・プラットフォーム内でも熱中症を起こすリスクが否めない環境になっている。

既に富岳物産（都留市）の本社充填所（20㌧×2基、10㌧×1基）に導入、運用を果たし、成果を挙げているほか、他の複数製造施設での引き合いも活発化している。

ガス検は、夏季に集中するLPガスプラント検査の負荷平準化を進めつつも、夏場の検査員負担を軽減するため、防爆エリア対応のファン付き作業服の導入を進めるなど、次世代技術を取り込みながらLPガスプラント保安の充実も図っている。

NTTテレコン
配送業務をDX化
TBP「配送モバイルアプリ」提供開始

NTTテレコン（本社・東京、深澤充社長）はこのほど、ガス事業者の配送業務のさらなる業務効率化に向け、テレコンビジネスプラットフォーム（TBP）「配送モバイルアプリ」＝**写真**＝の提供を開始した。配送員はスマートフォンなどモバイル端末での業務が可能になり、LPガス事業の核である配送業務のDXに貢献する。配送現場では、紙の配送伝票による配送管理や、配送後の指針値や点検結果などを報告するために帰社するなど、非効率な業務が存在している。配送ルートの作成は配送員の経験や練度に基づくことも多く、新人配送員が自立するまでに時間がかかるという課題もある。

同社が提供するTBPでは、配送員の業務DXを目的に、従来ハンディターミナルで処理していた配送管理をスマホ向け「配送モバイルアプリ」として提供する。対応する端末はiOSモバイル端末（iPhone、iPad）で、2023年3月にリリースを開始したTBPの「配送マネジメント」で予測した配送情報をモバイル端末の画面で確認し、配送実績を投入できる。また、配送予測情報を配送ナビゲーションアプリとデータ連携することが可能になり、最適なルートでの配送を支援する。

iPone画面でのイメージは、①配送リストの確認（配送順の変更も可能）②配送状況の確認（未配送物件などの確認）③容器の納入・取引の管理（容器バーコード読み取り）④配送実績を投入（指針値や点検結果など）――のフローで操作も容易。提供エリアは、日本国内のインターネット通信が利用可能なエリアで、端末でのインターネット環境が必要。

同社はLPガス業界全体の発展に向けて、ガス以外のデータとの相互分析によるエンドユーザー、ガス事業者に向けた新たな付加価値還元も目指していく。

大阪ガス
食のサブスク拡販へ
「FitDish」新CM発表会

大阪ガス（本社・大阪市、藤原正隆社長）は3月25日、東京都新宿区のルミネゼロで宅食事業「FitDish」の新テレビCM発表イベントを行い、新規事業に参入した背景やサービス概要を説明した。CMに出演したタレントの上戸彩さんも駆けつけた。

FitDishは、昨年9月に開始した冷蔵パウチ型の調理済み食品の宅配サービス。ウェブサイトで簡単な質問に答えることで、家族構成や好みに合わせたパーソナライズメニューが定期的に届く。サービス提供開始から半年で累計15万食を販売した。関東・関西エリアで新CMを放映し、さらなる拡販を目指す。

事業の背景を武村勝博理事エナジーソリューション事業部計画部長が説明し「中期経営計画2026で重点取り組みの一つに社会課題解決を掲げた。共働き世帯が増加し料理の手間や時間確保が難しくなり、買い物や献立を考えるのが負担になっている。そのため食品宅配市場は年々拡大しており、当社もそこに着目した」と述べた。FitDishは生鮮、冷凍に続く「第3の宅食」と位置づけ「食のサブスク」として新しい価値を提案するとした。

サービスの概要は藤田敦史同部電力・サービス企画チームメンバーが説明。パーソナライズメニューのほか「コンパクトな冷蔵パウチで提供するため冷凍庫を占有しない。電子レンジで1～2分で温められ、まとめて湯煎も可能。主菜と副菜の組み合わせは自由。メニューは家庭料理を中心に和洋中華40種類以上。100年以上の歴史がある大阪ガスクッキングスクールが監修して開発している」と述べた。顧客の声を生かして改良や新商品開発を行い4月以降、大人向けや子供向けなどラインアップを追加すると明かした。

右から武村勝博理事エナジーソリューション事業部計画部長、上戸彩さん、藤田敦史同部電力・サービス企画チームメンバー

萩尾高圧
容器を10～12%5月から値上げ

萩尾高圧容器（本社・新居浜市、萩尾広典社長）は、5月1日出荷分からLPガス容器、フロンガス容器の価格改定を実施する。値上げ幅は製品、容器種によって異なるが10～12%程度を値上げする。今回の値上げは、鋼材主原料にあたる原料炭高騰による製品材料の値上げ、原油高や円安の影響による副資材の高騰、物流の2024年問題による運送費上昇、また社会情勢による人件費引き上げが主な要因。

同社では「今回の主材料などの大幅な値上がりは自助努力だけでは到底吸収できるものではなく、近年の厳しい市場環境のなか、不本意ではあるがお客さまに値上げをお願いする運びとなった」と説明。また、「今後も品質の維持と安定供給の維持に努めていく方針である」と強調した。

ラジオCM通じ
高効率給湯器PR
JGKA

日本ガス石油機器工業会（JGKA、内藤弘康会長）は1日～6月28日まで、ラジオCMで高効率給湯器の周知拡大を図る。燃料代の節約や環境配慮、補助金活用のメリットとともにエコジョーズ、エコフィール、ハイブリッド給湯器の呼称を覚えてもらえるよう訴求する。

放送番組はTBSラジオをキー局とするジャパン・ラジオ・ネットワーク（JRN）全32局の「森本毅郎・スタンバイ！」とニッポン放送（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川エリアと北海道のSTV、青森県のRAB）の月・水・金曜日の天気予報枠。CMは20秒。JGKAのユーチューブチャンネルでも聞くことができる。

特損計上し連結
業績予想下方修正
両毛システムズ

両毛システムズ（本社・桐生市、北澤直来社長）は1日、2024年3月期通期で特別損失を計上し、通期の連結業績予想を下方修正した。

特別損失は、18年にオージス総研から提訴された訴訟について今年3月27日に前橋地方裁判所から判決の言い渡しを受け、訴訟損失引当金繰入額5億6600万円を計上した。修正後の業績予想は純利益を前回発表の34%減の7億9200万円とした。

組織改革と人事

パロマ（1日）（組織）神奈川厚木中央支所（技術）横浜南（人事）一宮（技術）満田孝久（人事）兼総務本部長（技術）杉浦太郎（総務）国際規画（人事）弘亀岡佐藤（技術）益子（技術）技術部長（技術）技術本部長（技術）技術部長（技術）技術本部長（技術）技術部長（技術）技術本部長